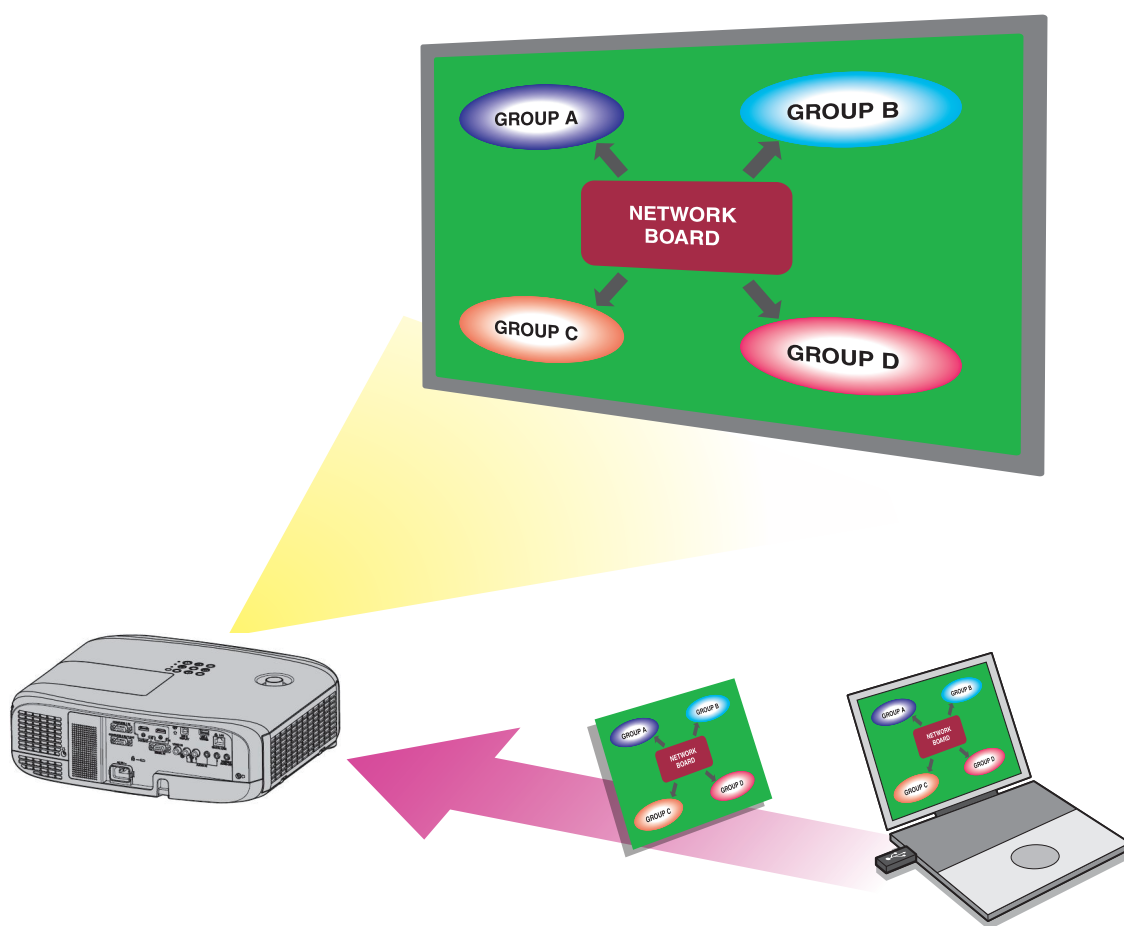


取扱説明書 プラグアンドシェア

Plug and Share

Mac



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

■取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

はじめに

ソフトウェア使用許諾書	3
ご使用にあたってのお願いとお知らせ	4
プラグアンドシェアの概要	5

準備する

ご使用のコンピューターをご確認ください	7
接続に必要なコンピューター環境	7
必要なシステム構成	8
ペアリングに使用する USB メモリー	8
USB メモリーをペアリングする	9
プロジェクターに USB メモリーを取り付けられない場合	10

ソフトウェアを使用する

ソフトウェアを起動する / 終了する	11
ソフトウェアを起動する	11
ソフトウェアを終了する	11
ランチャーを操作する	12
ランチャー	12
ライブモード	13
司会者モード	14
メニューバーを操作する	15
送信者名の設定	16
バージョン情報	16
接続先情報ファイルの削除	16
かんたん接続	17
<かんたん接続>画面	17
<ネットワーク ID 確認>画面	17
プロジェクターを確認する	18
ネットワーク ID の確認	18
ネットワークステータスの確認	18

その他

用語解説	19
困ったとき	20
商標について	裏表紙

ソフトウェア使用許諾書

本ソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことが、使用する条件になります。本ソフトウェアを使用した時点で、「ソフトウェア使用許諾契約書」に同意していただいたものとみなします。

● 第1条 権利

お客様は、本ソフトウェアの使用権を得ることはできますが、著作権もしくは知的財産権がお客様に移転するものではありません。

● 第2条 第三者の使用

お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

● 第3条 コピーの制限

本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

● 第4条 使用コンピューター

本ソフトウェアは、お客様が所有または管理する複数台のコンピューターにおいて使用することができます。

● 第5条 解析、変更または改造

本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。

お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、パナソニック コネクト株式会社では一切の保証をいたしません。

また、解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしてもパナソニック コネクト株式会社および販売店、販売代理店等は責任を負いません。

● 第6条 アフターサービス

ご使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」までお問い合わせください。

お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、パナソニック コネクト株式会社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

なお、本ソフトウェア仕様は予告なく変更することがあります。

● 第7条 免責

本ソフトウェアに関するパナソニック コネクト株式会社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。

本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、パナソニック コネクト株式会社および販売店、販売代理店等はその責任を負いません。

なお、パナソニック製プロジェクターの使用を伴わない本ソフトウェアの動作保証は一切行いません。

● 第8条 輸出管理

お客様は、本ソフトウェアを購入した国以外の国に持ち出される場合、その国および関係する各国の輸出管理に関連する法規を順守してください。

以下のことをあらかじめご了承ください。

- プロジェクターの使用または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、パナソニック コネクト株式会社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- プロジェクターによるデータの破損につきましては、パナソニック コネクト株式会社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- イラストや画面表示は、実際と異なる場合があります。
- この説明書は、Mac OS X v10.11 で操作したときの画面表示を基本に記載しています。
- 本ソフトウェアの仕様は、予告なく変更されることがあります。

ご使用にあたってのお願いとお知らせ

● セキュリティーに関するお願い

本ソフトウェアをご使用になる場合、以下のような被害を受ける場合が想定されます。

- 本ソフトウェアを経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意の第三者による本ソフトウェアの不正操作
- 悪意の第三者による本ソフトウェアの妨害や停止

プロジェクター本体とお使いのコンピューターに対して、セキュリティ対策を十分に行ってください。

- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。
- パナソニック コネクト株式会社および、その関係会社がお客様に対して直接パスワードを照会することはございません。直接問い合わせがありましても、パスワードを答えないでください。
- ファイアウォールなどの設定により、安全性の確保されたネットワークでご使用ください。
- ご使用のコンピューターのパスワードを設定し、ログオンできるユーザーを制限してください。

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューター等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
ID やパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容
等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アダプターや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が行われていない場合があります。お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN 機器をご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関するすべての設定を、各々の無線 LAN 機器の取扱説明書に従って行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

無線 LAN で使用する際のセキュリティ設定について、お客様ご自身で対処できない場合には、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」までお問い合わせください。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、本ソフトウェアを使用することをお勧めします。

プラグアンドシェアは下記のソフトウェアを使用します。

A portion of this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

プラグアンドシェアの概要

プラグアンドシェアはUSBメモリーを使用し、従来必要であったプロジェクターの選択をすることなく、プロジェクターに搭載された無線LANなどのネットワーク経由でコンピューターの画面を投写できるソフトウェアです。

お知らせ

- 天井取り付け（天つり含む）されたプロジェクターなど、直接プロジェクターにUSBメモリーを取り付けることができない場合でも本ソフトウェアのご使用は可能です。
 - ☞ 「プロジェクターにUSBメモリーを取り付けられない場合」（10 ページ）
- プロジェクターの無線LANの接続方法を[シンプル]にしている場合、無線LAN接続できる端末はライブモードで最大4台、司会者モードで最大10台までとなります。
- 本ソフトウェアは、音声の送信には対応していませんが、「ワイヤレスマネージャー ME」をインストールしており、オプション設定で「投写時に映像と一緒に音声も出力する」を有効にしている場合、本ソフトウェアを使用したときに、コンピューターの音声のプロジェクターから出力されます。
- ご使用のプロジェクターの表示デバイスのアスペクト比によって、投写映像の表示解像度が異なります。
 - 4:3の場合：1 024 x 768 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
 - 4:3以外の場合：1 280 x 800 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。

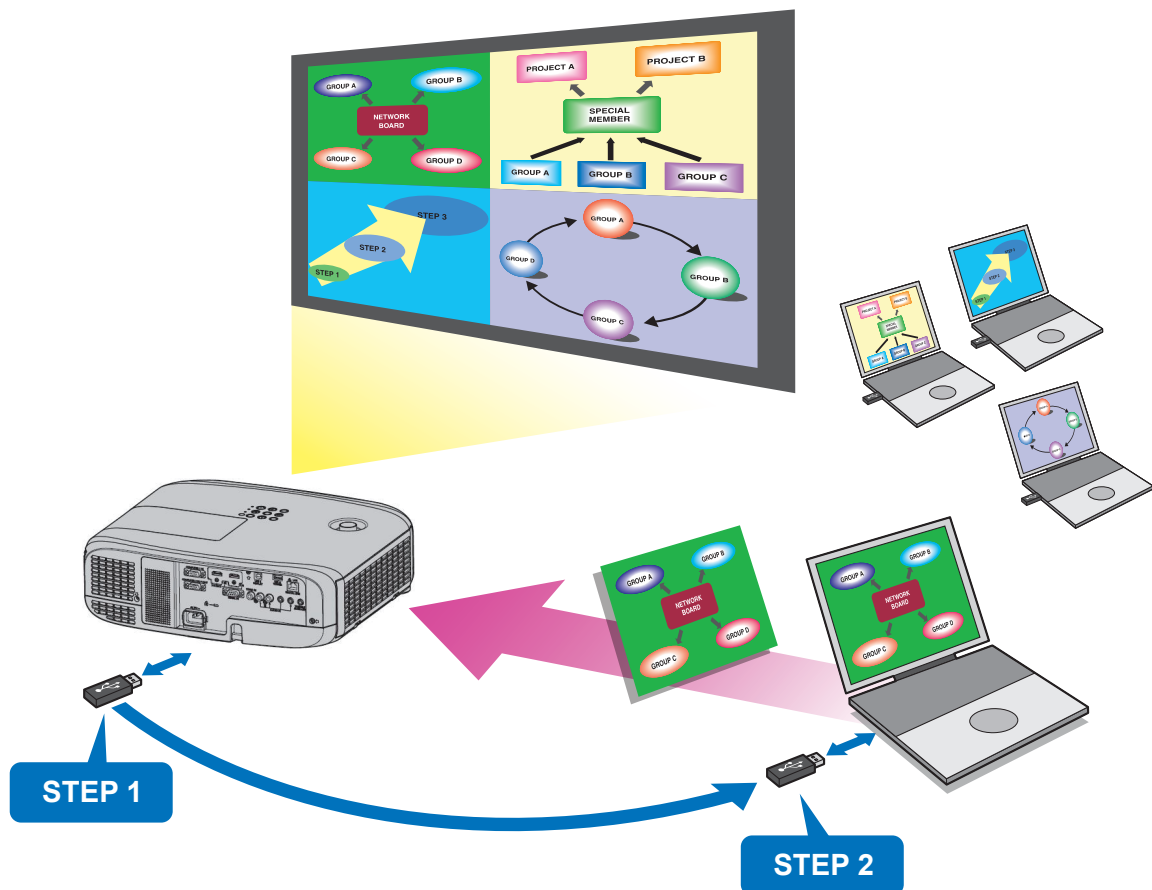
次の2つのステップでコンピューターの画面を投写できます。

STEP 1: プロジェクター本体にUSBメモリーを取り付けてペアリング

☞ 「USBメモリーをペアリングする」（9 ページ）

STEP 2: ペアリングしたUSBメモリーをコンピューターに取り付けてソフトウェアを起動

☞ 「ソフトウェアを起動する」（11 ページ）



- 本ソフトウェアの特長は以下の通りです。
 - プロジェクター本体にUSBメモリーを取り付けてペアリングすることにより、従来必要であったプロジェクターの選択を省略することが可能です。
 - ペアリングしたUSBメモリーをコンピューターに取り付け、本ソフトウェアを起動するだけで投写の準備ができます。
 - ペアリングしたUSBメモリー内のファイルを別のUSBメモリーにコピーしておくことで、1つのUSBメモリーを使いまわさずに複数人が同時にプロジェクターに接続できます。

プラグアンドシェアの概要 (つづき)

- 本ソフトウェアでは以下の2つのモードでご使用いただけます。
 - ライブモード
1台のプロジェクターで最大4台のコンピューターの画面を同時に投写画面上に表示することができます。
ランチャーの操作で投写画面上に表示するコンピューターの画面を切り換えることができます。
☞ 「ライブモード」 (13 ページ)
 - 司会者モード
リモコンやプロジェクター本体のボタン操作で、表示中の最大16台のコンピューターの画面の中から1台のコンピューターの画面を全画面表示することができます。
☞ 「司会者モード」 (14 ページ)

ご使用のコンピューターをご確認ください

■ 接続に必要なコンピューター環境

- はじめに、お使いのコンピューターに無線LAN機能が搭載されているかどうかをご確認ください。
- プロジェクターとコンピューターを接続する前に、必ず以下の設定をご確認ください。

チェック1 無線LANの設定

- 無線LANアダプターが正しく認識されていますか。
- 無線LANアダプターが有効になっていますか。
- 事前に無線LANアダプターのドライバーをインストールしてください。
ドライバーのインストール方法は、無線LANアダプターの取扱説明書を参照してください。

チェック2 ログオンするユーザーの設定

- 管理者権限でログオンできますか。

チェック3 コンピューターの設定

- セキュリティー（ファイアウォール）ソフトや無線LANアダプターのユーティリティソフトがインストールされていると、プロジェクターと接続できない場合があります。
- ファイアウォールのブロックを解除または停止していますか。
☞ 「困ったとき」(20 ページ)

すべての無線LANアダプターやコンピューターに内蔵されている無線LANアダプターでの動作を保証するものではありません。

ご使用のコンピューターをご確認ください(つづき)

■ 必要なシステム構成

本ソフトウェアを使用するには、下記の条件を満たすコンピューターが必要です。

OS :	Mac OS X v10.10/10.11, macOS Sierra/High Sierra/Mojave 上記OS の日本語版、英語版、中国語版に対応します。 プリインストールもしくはクリーンインストールされたもの以外は保証いたしません。
CPU :	Intel® Core™ i5 以上推奨
メモリー :	1024 MB 以上
LAN 環境 :	無線LANアダプター (IEEE802.11b/g/n/a 準拠) が必要
モニター画面 :	High Color (16bit) 以上
デスクトップ領域 :	1024 ドット× 768 ドット以上 2880 ドット× 1800 ドット以下

📌 お知らせ 📌

- 上記のシステム構成以外で使用された場合、および自作コンピューターで使用された場合の動作保証は一切いたしませんので、あらかじめご了承ください。
- ワイヤレス WAN をご使用のコンピューターでは、一部の機能が使用できない場合があります。
- IEEE802.11n で接続する場合は、いずれも 11n に対応する無線 LAN アダプター、プロジェクター、およびアクセスポイントを使用してください。
- プロジェクターの無線 LAN 接続機能使用時は、2.4 GHz/5 GHz 帯域の電波を使用します。無線 LAN 接続をするうえでのお願い事項や、使用できる無線 LAN のチャンネルなどの情報は、プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。
- スイッチャブルグラフィックス (Switchable Graphics) 機能を持ったコンピューターで、グラフィック機能を切り換える場合は、映像の表示を停止してから行うようにしてください。
- ご使用のプロジェクターの表示デバイスのアスペクト比によって、投写映像の表示解像度が異なります。
 - 4:3 の場合 : 1 024 x 768 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。
 - 4:3 以外の場合 : 1 280 x 800 ドットの映像が、プロジェクターの表示ドット数で表示されます。

準備する

上記の条件を満たす、すべてのコンピューターについて動作を保証するものではありません。

■ ペアリングに使用する USB メモリー

- FAT16 または FAT32 でフォーマットされた市販のものをお使いください。
約 30 MB の空き容量が必要です。
- セキュリティ機能付きの USB メモリーはお使いできません。
- ペアリングに使用できる USB メモリーについては、プロジェクターの取扱説明書“本機で使える USB メモリー”をご覧ください。
- USB メモリーの取り扱いについては、プロジェクターの取扱説明書“USB メモリーを使う”をご覧ください。

USB メモリーをペアリングする

USB メモリーをプロジェクター本体に取り付けてペアリングを行います。

この操作でUSB メモリーに本ソフトウェア一式と接続先情報ファイルが保存され、以後はこのUSB メモリーをコンピューターに取り付けてソフトウェアを起動するだけで、ペアリングを行ったプロジェクターに自動的に接続されます。

1 プロジェクターの設定を変更する

- 本体メニューの[ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [ペアリングガイド]を[オン]に設定する。

2 リモコンの<Panasonic APP>ボタン(またはプロジェクターの<INPUT SELECT>ボタン)を押して、入力を [Panasonic APPLICATION] に切り換える

- プロジェクターの投写映像に待ち受け画面が表示されます。

3 ペアリングをするUSB メモリーを<USB A (VIEWER)>端子に取り付ける

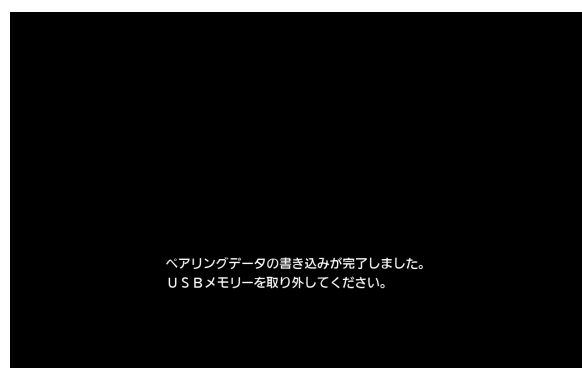
- ペアリングに使用できるUSB メモリーについては、☞「ペアリングに使用するUSB メモリー」(8 ページ)をご覧ください。
- USB メモリーの取り扱いについては、プロジェクターの取扱説明書「USB メモリーを使う」をご覧ください。

4 待ち受け画面に確認のメッセージが表示されるので、▶◀ボタンで [はい] を選択し、<ENTER>ボタンを押す

- USB メモリーに対してペアリングデータ(本ソフトウェアと接続先情報ファイル)の書き込みが行われます。



5 待ち受け画面に完了のメッセージが表示されたらUSB メモリーを取り外す



お知らせ

- 使用するUSBメモリーは、FAT16またはFAT32でフォーマットされた市販のものをお使いください。約30MBの空き容量が必要です。
- セキュリティー機能付きのUSBメモリーはお使いできません。


プロジェクターにUSBメモリーを取り付けられない場合

天井取り付け(天つり含む)されたプロジェクターなど、プロジェクター本体にUSBメモリーを取り付けることができない場合は、WEBサイトから本ソフトウェアをUSBメモリー内にダウンロードし、<かんたん接続>画面からプロジェクターを登録することでご使用いただけます。



1 WEBサイトから本ソフトウェアをダウンロードしてUSBメモリーに保存する

- WEBサイト (https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services_projector_download_application) のダウンロードページから [プラグアンドシェア] を案内に従ってダウンロードしてください。
- ダウンロードした zip ファイルを解凍し、できたフォルダーを移動して USBメモリーのルート直下 (USBメモリーを開いたときに最初に表示される場所) に保存してください。


2 USBメモリー内の本ソフトウェアを起動する

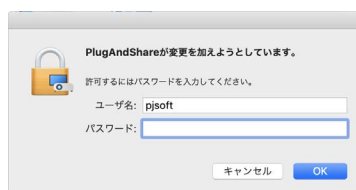
- USBメモリーに移動したフォルダー内の PlugAndShare.app  をダブルクリックしてソフトウェアを起動します。

3 <かんたん接続>画面で接続するプロジェクターを選択する

- 画面に表示されるネットワークIDを選択することで接続先情報ファイルが生成され、以降はプロジェクター本体に取り付けてペアリングしたUSBメモリーと同等にご使用いただけます。
- <かんたん接続>画面の詳細は  「かんたん接続」(17 ページ) をご覧ください。
- ネットワークIDの確認方法は  「プロジェクターを確認する」(18 ページ) をご覧ください。

4 ランチャーが起動します

- ランチャーを使用して全画面表示や投写するコンピューターの切り換え操作が行えます。
- ランチャーの詳細は  「ランチャーを操作する」(12 ページ) をご覧ください。
- 管理者権限が要求されたときは、管理者の名前とパスワードを入力してください。



お知らせ

- 使用するUSBメモリーは、FAT16 または FAT32 でフォーマットされた市販のものをお使いください。約 30 MB の空き容量が必要です。
- セキュリティー機能付きのUSBメモリーはお使いできません。
- プロジェクターの無線LAN接続機能使用時は、2.4 GHz/5 GHz 帯域の電波を使用します。無線LAN接続をするうえでのお願い事項や、使用できる無線LANのチャンネルなどの情報は、プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。

ソフトウェアを起動する / 終了する

ソフトウェアを起動する前に、あらかじめプロジェクター本体のネットワーク設定をしてください。
プロジェクター本体メニューの[ネットワーク/USB] → [無線LAN]を[シンプル]に設定しておく、簡単に無線LAN接続できます。

IEEE802.11a/nの5 GHz帯の周波数でご使用の場合など、[無線LAN]を[M-DIRECT]に設定しても使用できます。
[M-DIRECT]の設定についての詳細は、プロジェクターの取扱説明書[ネットワーク/USB]メニュー → [無線LAN]をご覧ください。

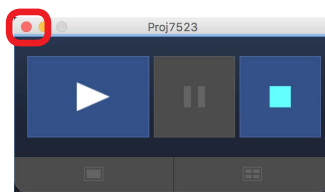
■ ソフトウェアを起動する

1 ペアリングされたUSBメモリー上のをダブルクリックする

- 本ソフトウェアを起動するとプロジェクターとの接続が完了し、ランチャーが表示されます。
- プロジェクター本体にパスワードが設定されている場合、ランチャー起動時や接続先プロジェクターを切り換えた際にパスワードを入力する必要があります。
- WEB サイトからダウンロードして初めて使用した場合や、接続先情報ファイルを削除し、異なる接続先へ接続する場合は、ランチャーが表示される前に<かんたん接続>画面が表示されます。接続したいプロジェクターのネットワークIDをクリックし選択します。
☞ 「かんたん接続」(17 ページ)

■ ソフトウェアを終了する

1 ランチャーのをクリックする



本ソフトウェアをWEBサイトからダウンロードして初めて使用した場合や、<かんたん接続>画面を使って異なる接続先へ接続した場合は、本ソフトウェア終了時に接続先情報ファイルの保存を行うかどうかの確認メッセージが表示されます。

お知らせ

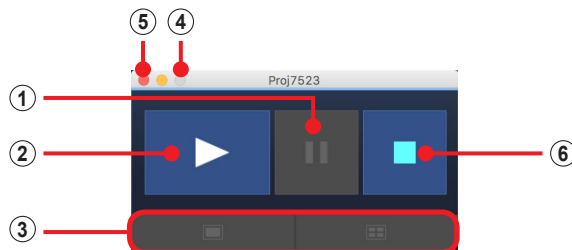
- USBメモリー上に配置されたフォルダーやファイルの名称変更、および移動を行うと正しく動作しません。
- ソフトウェア実行中にUSBメモリーを抜かないでください。ソフトウェアが異常終了することがあります。

ランチャーを操作する

ペアリング済みのUSBメモリーや、前回使用時に<かんたん接続>画面からプロジェクターを選んで接続するなど、接続先情報ファイルが保存されているUSBメモリーを取り付けて本ソフトウェアを起動すると、ランチャーが表示されます。投写された映像の操作（映像の表示の開始や停止）やシステムメニューなどを表示するなどの操作をランチャーで行うことができます。

プロジェクターと接続状態にあるときは、映像の表示を制御するボタンの操作が有効になります。

■ ランチャー



① 表示中の映像を一時停止します。

映像を表示中のみ操作ができます。操作を行ったときの画像で静止します。

② 映像の表示を開始または再開します。

③ 表示中の映像の全画面表示・分割表示を変更します。

映像を表示中のみ操作できます。


司会者モードでは操作できません。ランチャーからではなくリモコンやプロジェクター本体を操作して他のコンピューターからの画面を全画面表示することができます。

④ ランチャーの表示を最小にします。

⑤ ソフトウェアを終了します。

⑥ 映像の表示を停止し、分割表示に戻ります。

📌 お知らせ 📌

- ランチャーの位置は、マウスでドラッグして自由に変えることができます。
- ランチャーの表示を最小にして Dock に収納したときは、Dock 内の  をクリックすることで、ランチャーを再度表示させることができます。
- 動画再生用のアプリケーションによっては、動画部分が再生されないことがあります。
- 本ソフトウェアは、音声の送信には対応していませんが、「ワイヤレスマネージャー ME」をインストールしており、オプション設定で「投写時に映像と一緒に音声も出力する」を有効にしている場合、本ソフトウェアを使用したときに、コンピューターの音声はプロジェクターから出力されます。
- スタンバイ状態のプロジェクターをランチャーで開始操作を行うと、電源が入って映像の表示を開始します。

🙏 お願い

- プロジェクターの電源を入れる操作をする際は、プロジェクター周辺の人目に突然光源からの光が入ることがないように注意してください。

ランチャーを操作する(つづき)

■ ライブモード

コンピューター使用者が使用中のコンピューターの画面をプロジェクターで全画面表示にして使用するモードです。接続ユーザー数に応じて最大4画面のコンピューター画面が分割表示され、各ユーザーがそれぞれ全画面表示/解除することができます。少人数での会議に適したモードです。

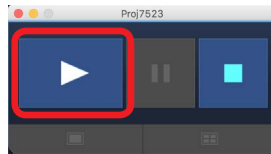
1 プロジェクターの設定を変更する

本体メニューの[ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [司会者モード]を[オフ]に設定する

2 ランチャーの▶をクリックする

クリックしたコンピューターの画面が全画面表示されます。

複数台で使用した場合は縮小した4分割画面が表示され、ランチャーで拡大操作をしたコンピューターが全画面表示されます。(最大4台)



● 全画面表示に切り換える

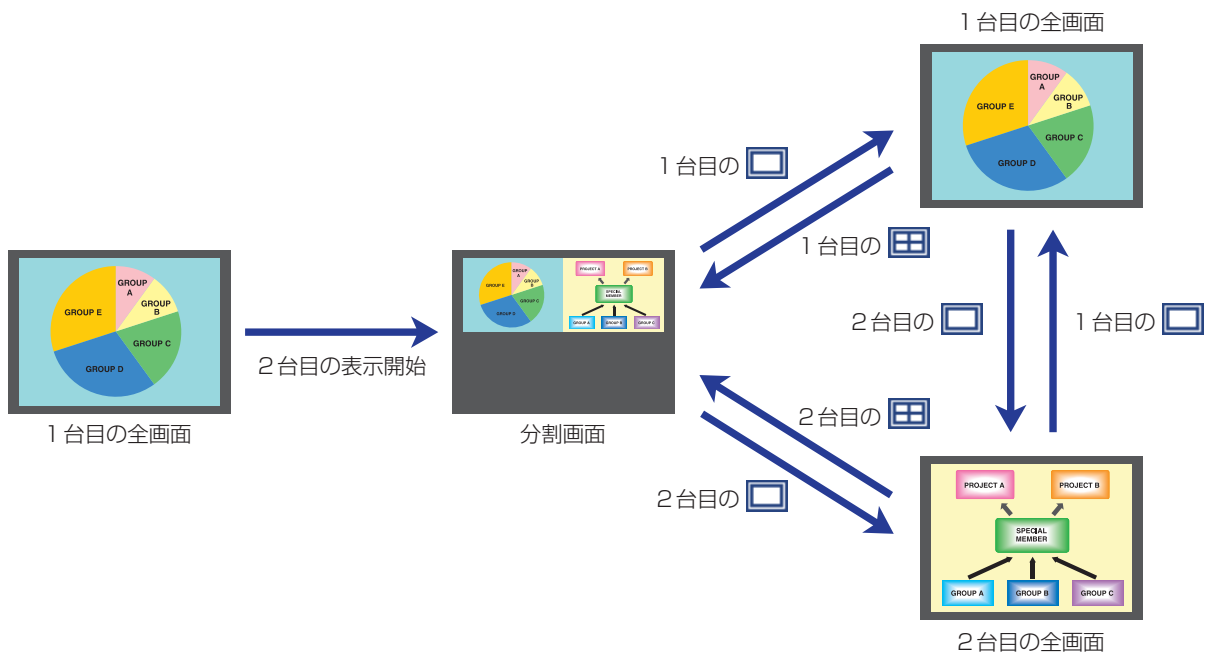
画面を分割して表示している場合、画面を表示中のいずれかのコンピューターでランチャーの▶をクリックすると、そのコンピューターの画面が全画面で表示されます。

● 分割画面表示に切り換える

全画面表示しているコンピューターで、ランチャーの田字アイコンをクリックすると、分割画面表示に戻ります。

● 別のコンピューターの画面表示中に割り込んで表示する

別のコンピューターが全画面表示中に、ランチャーの▶をクリックすると、クリックしたコンピューターの画面が全画面で表示されます。



📌 お知らせ 📌

- 別のコンピューターが全画面表示中にランチャーの▶をクリックしても全画面表示ができないことがあります。この場合、プロジェクターの設定を次のように設定してください。
[メニュー] → [ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [割り込み]を[オン]にする。

ランチャーを操作する(つづき)

■ 司会者モード

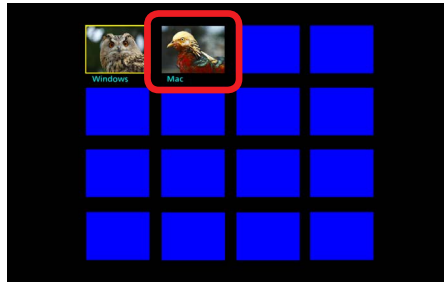
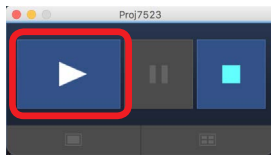
司会者などの操作担当者がリモコンやプロジェクター本体を操作して使用するモードです。接続ユーザー数に応じて最大16台のコンピューター画面が分割表示され、全ユーザーのコンピューター画面をそれぞれ全画面表示/解除することができます。

1 プロジェクターの設定を変更する

本体メニューの[ネットワーク/USB] → [Panasonic APPLICATION] → [司会者モード]を[オン]に設定する

2 ランチャーの▶をクリックする

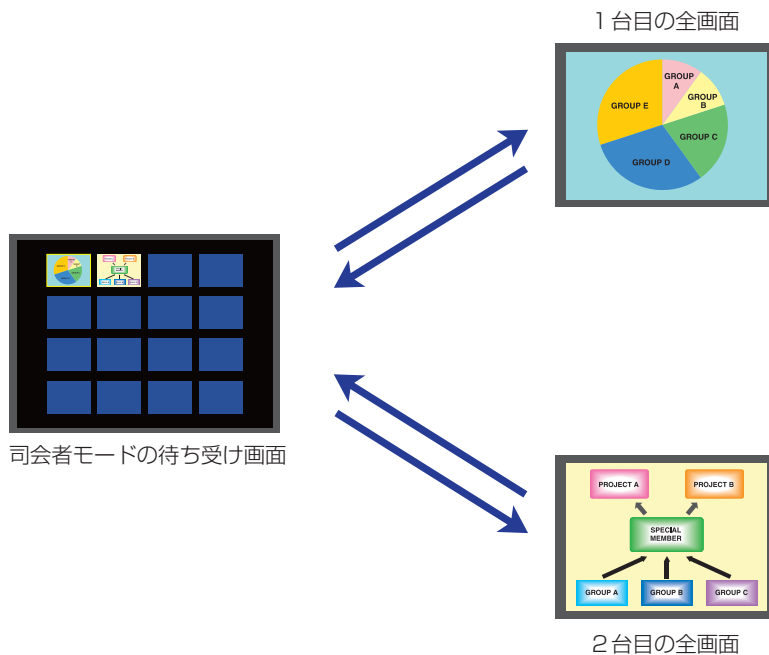
使用しているコンピューターの画面が司会者モードの待ち受け画面に追加されます。



司会者モードの待ち受け画面

3 全画面表示するコンピューターを選択する



待ち受け画面に表示されているコンピューターの中から、全画面表示したいコンピューターをリモコンやプロジェクター本体の▲▼◀▶ ボタンで選び、ENTER ボタンを押すと選んだコンピューターが全画面表示に切り換わります。全画面表示中に再度ENTERを押すと待ち受け画面に戻ります。



📌お知らせ📌


- プロジェクターの無線 LAN の接続方法を [シンプル] にしている場合、無線 LAN 接続できる端末は最大 10 台となり、表示できる画面も 10 台までとなります。
- 本ソフトウェアは、音声の送信には対応していませんが、「ワイヤレスマネージャー ME」をインストールしており、オプション設定で「投写時に映像と一緒に音声も出力する」を有効にしている場合、本ソフトウェアを使用したときに、コンピューターの音声プロジェクターから出力されます。


メニューバーを操作する

本ソフトウェアを起動するとメニューバーにアイコンが表示されます。をクリックすると、本ソフトウェアやプロジェクターを操作するメニューが表示されます。本ソフトウェアを起動するとランチャーが表示されますが、このメニューでは投写された映像の操作（映像の表示の開始や停止）に加え、送信者名の設定やバージョン情報の確認などができます。



 映像を表示不可（モノクロの表示） プロジェクターと接続されていない状態です。

 映像を表示可能（緑の表示） プロジェクターと接続されており、投写が可能な状態です。


 映像を表示中（青の表示） プロジェクターと接続されており、現在映像を投写している状態です。

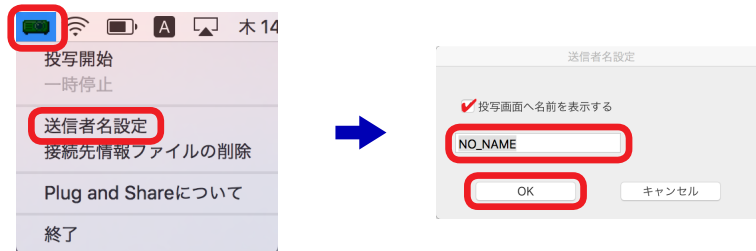
投写開始	映像の表示を開始します。 映像の表示中は、[投写停止]に表示が変わり、[投写停止]を選択すると映像の表示を停止し、分割表示に戻ります。
一時停止	映像の表示を一時停止します。 操作を行ったときの画像で静止します。 一時停止中は、[一時停止解除]に表示が変わります。
送信者名設定	表示中の映像に、送信者の名前を表示することができます。 📄 16 ページ
接続先情報ファイルの削除	ペアリングや<かんたん接続>で生成された接続先情報ファイルの削除を行います。 📄 16 ページ
Plug and Shareについて	本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。 📄 16 ページ
終了	本ソフトウェアを終了します。

メニューバーを操作する(つづき)

■ 送信者名の設定

表示される映像に、送信者の名前を表示することができます。

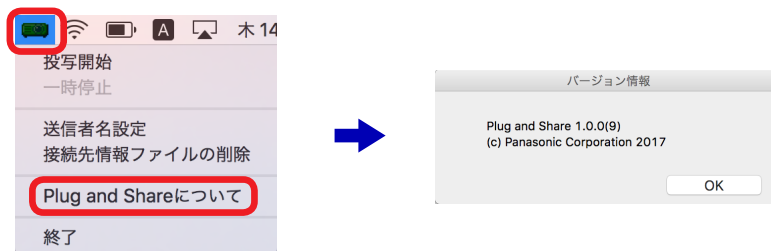
- 1 メニューバーの  をクリックし、[送信者名設定] をクリックする
- 2 [送信者名設定] の [投写画面へ名前を表示する] にチェックを入れる
- 3 送信者名を入力し [OK] をクリックする
 - 半角の英数字 (8文字まで) を入力してください。



■ バージョン情報

本ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

- 1 メニューバーの  をクリックし、[Plug and Share について] をクリックする




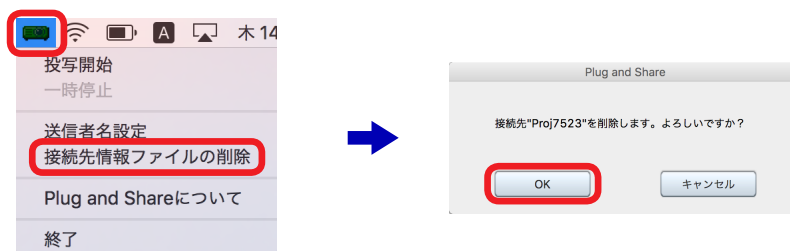
■ 接続先情報ファイルの削除

他のプロジェクターに換えるときに使用します。

ペアリングや<かんたん接続>で接続先情報ファイルの削除を行います。次回、本ソフトウェアを起動すると、接続先のプロジェクターを選択するために<かんたん接続>画面が表示されます。

☞ 「<かんたん接続>画面」(17 ページ)

- 1 メニューバーの  をクリックし、[接続先情報ファイルの削除] をクリックする
- 2 確認のダイアログが表示されるので [OK] をクリックする



かんたん接続

■ <かんたん接続>画面

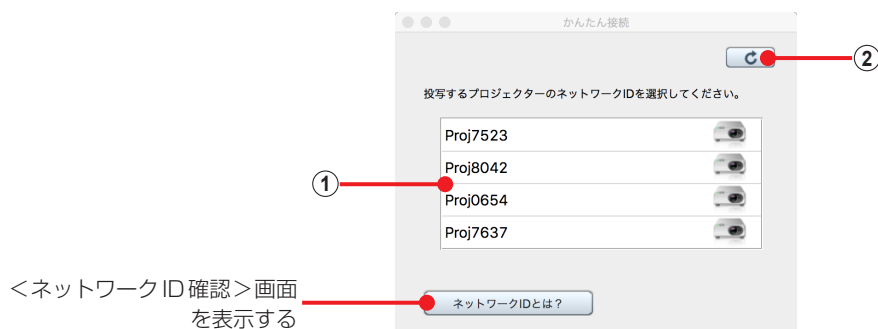
ペアリングされていないUSB メモリーを使用して本ソフトウェアを起動したときに<かんたん接続>画面が表示されま

す。
画面に表示されるネットワーク ID の中から接続したいプロジェクターを選択することで、ペアリングしたときと同様にご

使用いただけます。
ソフトウェア終了時に接続先情報ファイルを保存しておけば、次回以降はランチャーが起動しますので毎回選択する必要

はありません。

☞「ソフトウェアを終了する」(11 ページ)



① ネットワーク ID

プロジェクターを識別する Proj + 4 桁の数字からなる ID です。

☞「プロジェクターを確認する」(18 ページ)

② 更新ボタン

ボタンをクリックすることで、プロジェクター検索結果を最新の状態に更新します。

■ <ネットワーク ID 確認>画面

ネットワーク ID の確認方法を記載した画面です。

<ネットワーク ID 確認>画面を開くには、<かんたん接続>画面の[ネットワーク ID とは?] をクリックします。



プロジェクターを確認する

■ ネットワーク ID の確認

1 プロジェクターの電源を入れる

2 リモコンの<Panasonic APP> ボタン (またはプロジェクターの<INPUT SELECT> ボタン) を押して、入力を [Panasonic APPLICATION] に切り換える

プロジェクターの投写映像に待ち受け画面が表示されます。

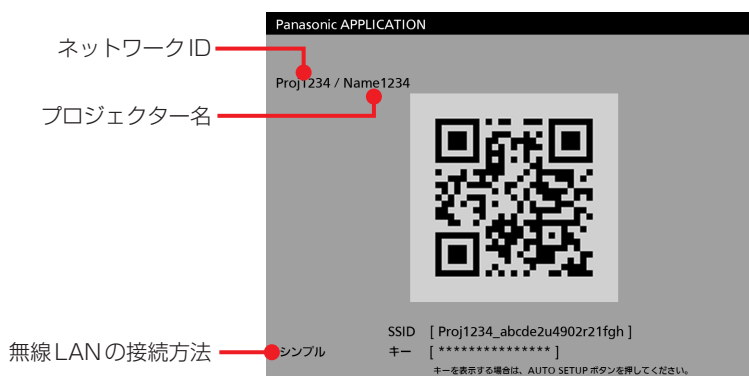
3 プロジェクターの無線LANの接続方法、プロジェクター名、ネットワーク IDを確認する

プロジェクターの機種によって、表示場所が異なることがあります。

● 待ち受け画面が表示されるプロジェクター

待ち受け画面が表示されるプロジェクターでも、既に他のユーザーが映像を表示している場合や、司会者モード (14 ページ) が「オン」の場合は、待ち受け画面が表示されません。
< AUTOSETUP/CANCEL > ボタンを押すことで、ネットワーク ID を確認することができます。

・ 待ち受け画面の表示例



■ ネットワークステータスの確認

プロジェクターのメニューで、IPアドレスなどのネットワークの設定情報を確認することができます。

- プロジェクターの<メニュー> ボタンを押して、表示されたメニューから [ネットワーク/USB] → [ネットワークステータス] で詳細なネットワークの設定情報を確認することができます。

用語解説

用語	説明
Access point アクセスポイント	無線LANでコンピューターとネットワークを接続する電波中継機のことです。 アクセスポイントに接続することで、アクセスポイントが接続されているネットワークにアクセスできるようになります。
Account ユーザーアカウント	コンピューターを使う人（ユーザー）を識別するための登録名のことです。「管理者権限」を持つアカウントと「ユーザー権限」を持つアカウントの2種類があります。ユーザー権限のアカウントでは、一部使えない機能やアプリケーションソフトがあります。
管理者権限のアカウント	他のユーザーに影響する変更を行うことができるアカウントです。
Firewall ファイアウォール	ネットワーク（インターネットなど）経由の不正なアクセスからコンピューターを守るためのセキュリティシステムのことです。 ネットワークとの間でやり取りされるデータを規制して、認められているデータ以外は通過できないようにすることで、不正なアクセスを防ぎます。
LAN	Local Area Networkの略です。 会社内など比較的狭い範囲のネットワークのことです。
Logoff ログオフ	ネットワークやコンピューターのシステムにアクセスできる状態（ログオン）を解消することです。 ログアウトとも呼ばれます。
Logon ログオン	ネットワークやコンピューターのシステムにアクセスできる状態にすることです。 ログインとも呼ばれます。
MPEG	デジタル動画を効率的に圧縮するための技術のことです。 そのひとつであるMPEG2は、すぐれた画質で、DVD-Videoなどに利用されています。 圧縮率がMPEG2より低いMPEG1もあり、Video CDで利用されています。また、電話回線など通信速度の低い回線を通じた低画質、高圧縮率の映像の配信を目的としたMPEG4という規格もあります。
Wireless LAN 無線LAN	電波を利用して、無線で通信を行うネットワークのことです。 共通の無線周波数を使ってデータの送受信を行いますので、LANケーブルの配線が不要です。

困ったとき

■ プロジェクターとコンピューターが無線LAN接続できないとき

- **本ソフトウェアを起動していますか。**
プロジェクターに無線LANで画像を送信するには、コンピューター側で本ソフトウェアを起動する必要があります。
- **ファイアウォールが【入】になっているとき**
ファイアウォールを停止してから、本ソフトウェアを起動してください。

■ 無線LANの接続が切れてしまう

映像の表示が中断された場合や通信が切断された場合は、プロジェクターのリストから再度プロジェクターを選択してください。

それでもプロジェクターと通信できない場合は、プロジェクターの電源を切り、クーリングが終了した（本体の電源モニターがオレンジ色から赤色に変わった）後に本体の主電源スイッチがある場合は、スイッチを切ります。

スイッチがない場合は、電源ケーブルを抜きます。

再度電源を入れてから、もう一度本ソフトウェアからプロジェクターを選択してください。

■ インターネットをしながら無線LAN接続を行いたい

- プロジェクター本体の設定をシンプルでご利用いただいている場合など、本体とコンピューターが直接通信している場合はインターネット接続ができません。本ソフトウェアを終了してからご利用ください。

■ IEEE802.11gで接続できない／IEEE802.11nで接続できない

- IEEE802.11b、IEEE802.11g対応の無線LANアダプターが混在するような環境ではIEEE802.11bで接続される場合があります。
- 使用環境（場所、電波状況、距離など）によっては、IEEE802.11bで接続される場合があります。

■ 画像の表示やアニメーションの再生が遅い、スムーズでない

- コンピューターのCPU速度が遅くありませんか。
☞「必要なシステム構成」(8 ページ)
画像の表示やアニメーションの再生は、コンピューターのCPU性能に大きく依存します。
- 周囲で無線通信が行われている場合は、影響を受ける場合があります。
- 他のアプリケーションを同時に起動している場合、遅くなることがあります。
- 動画を再生する場合、表示が遅くなることがあります。

■ DVDやMPEG2、Blu-ray Discのコンテンツがコンピューター上で再生できない

- 本ソフトウェアを起動しているときは、以下の制限があります。
 - ・ DVD、MPEG2、Blu-ray Discの動画の再生はできません。
 - ・ 3D系のアプリケーションを使用した場合、アプリケーションの性能が低下したり、描画されなかったり等、正常に動作しない場合があります。
- 本ソフトウェアを終了し、コンピューターケーブルやHDMIケーブルを接続してご利用ください。
(動画を再生するプレイヤーによっては、動画が再生できない場合もあります。)

■ コンピューター操作と実際の表示映像にタイムラグがある

- 本ソフトウェアはコンピューターの画面を取り込んで圧縮してからプロジェクターに送信します。また、プロジェクター側では受信したデータを解凍してから映像を表示します。
この処理時間と無線LANの環境によって遅延時間が発生します。ご使用のコンピューターの性能によっても遅延時間に差がでます。

困ったとき(つづき)

■ 検索したプロジェクターに映像を表示するときに、プロジェクターの電源が入らない場合

- [スタンバイモード]の設定が[ECO]になっていると、映像表示時にプロジェクターの電源は入りません。その場合は、以下の操作をしてください。
プロジェクターの電源を入れて、メニューの[ECO マネージメント]→[スタンバイモード]の設定を[ECO]から[ノーマル]に切り換えてください。

■ 無線LANの無線LANの接続方法、プロジェクター名、ネットワークIDが表示されない

■ プロジェクターが検索できない

- プロジェクターの設定によっては、無線LANの無線LANの接続方法、プロジェクター名、ネットワークIDが表示されない、もしくは見つからない場合があります。その場合は、以下の操作をしてください。
<INPUT>を<Panasonic APPLICATION>に切り換えてください。

■ 動画をフルスクリーンで再生した場合に、表示している映像が途中で止まる

動画をフルスクリーンで再生した状態で映像の表示を実行すると、途中で映像が止まる場合があります。その場合は、動画再生の画面表示サイズを変更してください。

設定変更例：QuickTime Playerの場合

メディアプレーヤーとしてQuickTime Playerを使用している場合は、メニューバー [表示] → [画面の大きさに合わせる] を選択してください。

商標について

- Mac、macOS、OS XおよびQuickTimeは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Intel、Intel Centrino、Intel Core2 Duo およびIntel Core i5 は、アメリカ合衆国およびその他の国におけるインテル コーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。なお、本文中では®やTMマークは明記していません。

ご注意

- 本ソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本ソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本ソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター

電話 フリー
ダイヤル



0120-872-601

※携帯電話からもご利用いただけます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9:00～17:30（12:00～13:00は受付のみ）

URL <https://panasonic.biz/cns/projector/supportcenter/>

- * 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
- * お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック コネクト株式会社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号